様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2006-2008
課題番号：18300317
研究課題名（和文）　在外古地図とスクールアトラスでの地名表記とその地理教育への適用に関する研究
研究課題名（英文）　Investigation on place names on old maps and school atlases, and their application in geography education

研究代表者
田辺 裕（TANABE HIROSHI）
帝京大学・経済学部・教授
研究者番号：00012394

研究成果の概要：日本海表記の変遷とその背景を示す古地図を、ポルトガルやロシア等ヨーロッパ５カ国の多数の図書館等で数多く特定し記録をとった。ヨーロッパ人によって広域海域名を地図に表記する習慣がもたらされた時点から、日本海の形状が確定しその呼称表記が定着するまでの過程をより明確に画像を用いて示すことができるようになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	2,500,000	0	2,500,000
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	5,000,000	750,000	5,750,000

研究分野：政治地理学・経済地理学
科研費の分科・細目：地理学・地理学(地域区分・地誌学・地理教育)
キーワード：地図　地名表記　国際情報交換　イギリス:オランダ:ポルトガル：フランス：ロシア　日本海

１．研究開始当初の背景

地理的な存在の名称は、命名をした主体による認識に基づく地名の生成にはじまり、通商の拡大などにともない広域的に同じ呼称を用いる必要性のため、地名の受容・定着過程を経て確立する。日本海という地名は、外部から来た西洋人によって生成されローカルに受容され定着した点、また近年韓国によりこの呼称に対して異議が主張されている点でたいへん興味深い。「日本海」の成立・展開については多くの研究があるが、その過程は複雑であり、論じ尽くされたとは言えない(谷治, 2002)とされている。

平成１２年のソウルの国際地理学会議において、東海協会、韓国地図学会、韓国財団、海洋漁業省、教育省が後援して地名表記に関する特別セッションが開かれた。発表は、海洋地名表記の諸問題の一般論、ノルウェー西岸、インド洋などの表記に関するものもあったが、そのほとんどは韓国地理・地図学者による東海/日本海の表記問題であった。

当初は単純な地名表記問題ととらえていたが、平成 16 年のグラスゴー大会において、韓国地理学会は前記の諸団体の支援を得て、（特別セッションが開かれたという意味で）国際地理学会議において認知された東海表記が正しいとする主張を盛り込んだ資料を大量に諸国代表や展示場に集まった教科書・地図帳出版社に配布したことで、これは単なる地名表記問題から日韓両国の外交問

題となり、同時に国際的な地理教育上の地名表記の問題に広がっていった。外交問題は外務省の問題であるが、地理教育における地名表記は地理教育にたずさわる地理学者の問題でもあり、その研究が必要であると考えた。

２．研究の目的

地名の生成と初期の受容・定着を把握するには世界各地に所蔵される古地図を資料とするのが有効である。古地図の網羅的な調査はイギリスにおいて韓国グループが行った例(Lee et al., 2002)、イギリス、フランス、アメリカ合衆国の 3 カ国において外務省が行った例がある。これらの調査では政治的バイアスの懸念は払拭できないし、前者では大幅な検索漏れが指摘されている(外務省, 2002)。またいずれも地名の出現頻度のみに注目した調査である。

本研究の目的は中立的・網羅的な調査を行うことに加えて地図学的な見地からの検討も行うことである。

３．研究の方法

すでに調査が行われたイギリスとフランスにおける検証確認的調査のほか、「日本海」地名の成立・展開の上で重要と考えられる、ポルトガル、オランダ、ロシアにおいて網羅的所蔵調査を行った。同時に 5 カ国におけるスクールアトラスにおける記述状況から、学校教育での受容・定着について調査した。

まず各国主要な図書館や大学に関して問い合わせやウェブを用いた情報収集により 19 世紀以前のアジア東北部の地図の所蔵の見当をつけ、集中して所蔵のあると考えられる現場に赴いた。カタログから日本海が含まれる可能性のある地図を抽出し、1 点ずつそれらにあたり記録を行った。可能な場合デジタルカメラや複写機で複製画像を得た。

当初計画ではアメリカ国会図書館の訪問調査も想定していたが、当該館では地図資料の多くが電子化されており、電子媒体で本研究の対象となるものを入手した。他にも電子媒体で地図資料が得られるソースから情報を収集した。

閲覧調査を行ったのは以下の施設である。アムステルダム大学図書館、ライデン大学図書館、オランダ公文書館、オランダ王立図書館、オランダ海事博物館、ケンブリッジ大学図書館、グリニッジ国立海事博物館図書館、リスボン大学図書館、ポルトガル国立図書館、ポルトガル公文書館、ポルトガル国土地理院、リスボン地理学協会、パリ大学地理学研究所図書館、ロシア国家(旧レーニン)図書館、ロシア国立(旧シチェドリン)図書館、ロシア科学アカデミー地理学研究所、ロシア科学アカデミーサンクトペテルブルグ図書館、ロシア地理学協会。

４．研究成果

これら各地での調査では、多くの方の協力により、原則一般公開されていないものも含め多くの貴重な資料を調査できた。また、現在ほぼ絶版となっている貴重な、日本ではもはや入手困難な資料を購入することもできた。

結果をまとめ、具体的には以下のような内容を、調査で撮影複写できた 17 世紀から 20 世紀初頭にかけてヨーロッパで発行された地図を示しながらまとめることができた：

日本海海域の呼称に関しては、古くは華夷思想にもとづく四海の名称が古くから使われていた。これらは特定の海域名を指すものではなく、方位で海を区別するものである。広域海域名を地図に書き入れる習慣はヨーロッパ人がもたらしたものである。日本海はその北方部分がヨーロッパ人に不明な状態が 18 世紀末まで続き、したがって、その海域名も固定しなかった。日本海名称を現在の日本海に与えた最初の地図は、現存する限りでは、マテオ・リッチの『坤輿萬国全圖』であるが、これで日本海名称が定着したわけではない。初期においては「日本海」名称を日本へのアクセス海路である太平洋岸に与えるものもあった。日本海名称を太平洋側に与えてしまうので、日本海は「朝鮮海」とする地図が 17 世紀後半から 18 世紀にかけて出現した。ラペルーズやクルーゼンシュテルンの航海により日本海の形状がヨーロッパ人に明らかになり、彼らが用いた「日本海」の名称が定着していった。

この研究成果をチュニスでの国際地理学会議(IGC)で発表した。「日本海」の呼称の議論はアフリカ等の地域における地名議論とは違い、コロニアリズムの枠組みではとらえられないことを世界各地からの参加者に理解していただけたと思われる。

また、日本地理学会 2009 年春季学術大会において「「日本海」呼称の起源と現状」というタイトルの公開シンポジウムを企画しこの成果を日本語で発表した。この場では国内外 150 名の地理学関係者の参加があり、本研究グループの他、外務省、海上保安庁、国土地理院からの発表があり、ロシア科学アカデミー地理学研究所コメジコフ教授を招聘し講演をいただいた。

また、現地調査対象 5 カ国で中等教育でのスクールアトラスならびに教科書を各種入手し、各国の地理教育における「日本海」の取り扱いについて現状を把握した。いずれも 150 年近く刊行を続けているオランダのボスアトラス、イギリスのフィリップス スクール アトラスについては図書館で初版からの日本周辺の図を精査した。オランダ、ポルトガル、ロシアでは「日本海」に相当する地名

表記のみであるが、イギリスとフランスではそれ以外の表記も見られた。イギリスでの表記は従来「日本海」相当であったが、今世紀に入ってから変化したことが分かった。教科書に関してはひとつの教科書の中で併記と日本海のみとで必ずしも統一されていない場合が見られ、併記は定着していない状況にあると理解された。

あわせてこの研究成果の出版へ向けての検討準備を行った。現在作業が進捗中であり、2009年度中に出版が行われる予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　２件）

Watanabe, K.; Yaji, M.; Takizawa, Y.
The naming of high seas as a process of early globalisation
International Geographical Congress
2008年8月13日
チュニス

谷治 正孝、渡辺 浩平
古地図からみた日本海名称
日本地理学会2009年春季学術大会
2009年3月28日
東京

６．研究組織
(1)研究代表者
田辺 裕(TANABE HIROSHI)
帝京大学・経済学部・教授
研究者番号：00012394

(2)研究分担者
谷治 正孝(YAJI MASATAKA)
帝京大学・文学部・客員教授
研究者番号：70015577

滝沢 由美子(TAKIZAWA YUMIKO)
帝京大学・文学部・教授
研究者番号：40349296

渡辺 浩平(WATANABE KOHEI)
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：10256084

(3)連携研究者
なし